

ぼくのそんけいするおじいちゃん

瀬戸内市立今城小学校

三年生 山本 晃 輔

ぼくのおじいちゃんは、カキのようしょくをしています。暑い日も寒い日も毎日、朝早く起きて船に乗ります。夏は、顔やうでが日やけで真っ黒です。真冬の寒い日や雪がふる日も、おじいちゃんはがんばって船に乗ります。お母さんも手伝いをしているのです。ぼくもときどきついて行き、おじいちゃんの手伝いをします。おじいちゃんがカキをあげに行くときは、ぼくも手ぶくろと長ぐつをはいて船に乗ります。カキのいかだにいたら、おじいちゃんは、いかだに船をつけて、いかだからカキがたくさんついた長いロープを、クレーンのフックに何本もつけていきます。たくさんつけたら、船にもどってクレーンで持ち上げて、船の上でいきおいよく落とします。とても力がある

作業なので、ぼくは、手伝うことはできません。いつも心の中で、「おじいちゃんはすごいな。おじいちゃんがんばれ。」と思っています。ぼくは、おじいちゃんの手伝いをしているときは、おじいちゃんの力になりたいので、バケツに海水をくんで、船の上に乗せたカキについてきた魚をさがします。ぼくは、タツノオトシゴや赤ちゃんダコ、魚を見つけたことがあります。みんなの待つカキ小屋にいたら、がんばっているおじいちゃん役に立てたことがうれしいので、みんなにほうこくします。すると、

「すごいなあ。よく見つけたなあ。」

と言ってくれました。ぼくは、とっとうれしい気持ちになるのです。

今年の夏、おじいちゃんの家近くの夏祭りに行ったあと、おじいちゃんの家にとまりました。次の日、おじいちゃんの手伝いをするために、ねむい目をこすりながら朝五時に起きました。急いで朝ごはんを食べて、船に乗りました。船の上は、とても暑く、お茶を飲んだり休けいをとったりしながら、おじいちゃんの手伝いがんばりました。おじいちゃんも暑くて、しんどいはずなのに、おじいちゃんは、

「晃輔、暑くないか。しんどくなったら休けいな。」

と、ぼくの心配ばかりしてくれました。そして、終わったあとには、

「晃輔、手伝ってくれてうれしかった。ありがとう。」

と言ってくれました。ぼくは、とてもうれしい気持ちになり、手伝ってよかったと心から思いました。そして、おじいちゃんをこれから手伝って、少しでもおじいちゃん役に立ちたいと思いました。

ぼくは、毎年、お正月に楽しみにしていることがあります。それは、おじいちゃん手作りのおぞうを食べることです。おぞうの中には、もちろんおじいちゃんがよくしたカキが入ります。おじいちゃんのおぞうには、ほつぺたが落ちるほどおいしいです。そのなかでも、ぼくが一番好きなのは、おぞうに入るカキです。おぞうに入るカキは、やわらかくて、ぷりぷりでとってもおいしいです。おじいちゃんが、暑い日も寒い日も、カキがおいしく育ちますように。たくさんの人に、喜んで食べてもらいますようにと、心をこめて育てているからおいしいのだとぼくは思います。これからも、毎年、おじいちゃんの作るおぞうを食べることができたらうれしいです。

おじいちゃんは、暑い日も寒い日も、船に乗りがんばって仕事をしています。ときには、今日はゆっくりねたいと思う日もあると思います。でも、カキを食べる人のことを思い、一先けん命はたらくおじいちゃんを、ぼくは、とってもかっこいいと思っています。いつもやさしくて、力持ちで、がんばり屋さんが大好きです。これから先、苦しくて、にげ出したいと思うことに出合うかもしれません。そんなときは、おじいちゃんのがんばるすがたを思い出して、がんばっていきたいと思います。そして、ぼくもいつか、おじいちゃんみたいにやさしくて、だれかのことを思っがんばれる人になりたいです。